

横浜みどりアップ計画市民推進会議 第13回「緑をつくる」施策を検討する部会 会議録	
日 時	令和2年10月20日（火）午後14時00分～16時00分
開 催 場 所	横浜市庁舎18階共用会議室なみき17会議室
出 席 者	池田委員、池邊委員、国吉委員、高田委員（五十音順）
欠 席 者	石原委員
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 部会長の選任について</li> <li>2 横浜みどりアップ計画「緑をつくる」施策の評価・提案について</li> <li>3 その他</li> </ol>
議 事	<p>（事務局） では、定刻となりましたので始めさせていただきます。本日は委員の皆さまにはご多忙のところお集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から横浜みどりアップ計画市民推進会議第13回「緑をつくる」部会を開催いたします。</p> <p>まず、本日の会議について報告いたします。本会議ですが、「横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱」第5条第2項の規定により、半数以上の出席が会議の成立要件になっておりますが、本日、委員定数5名のところ、ウェブを含めて4名のご出席いただいておりますので、会が成立することをご報告いたします。</p> <p>本会議ですが、要綱第8条により公開となっており、会議室内には傍聴席と記者席を設けています。</p> <p>また、本日の会議録につきましても公開とさせていただきます。会議録は各委員の皆さまに事前にご確認いただきたいと思います。なお、会議録には個々の発言者氏名を記載することとしておりますのでご了承いただきたいと思います。</p> <p>さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページおよび広報誌等への掲載をさせていただくことも併せてご了承願います。</p> <p>前回3月12日の予定でしたが、その部会を開催できませんでしたので、今回は前回予定しておりました内容も盛り込んで、部会長の選任を予定させていただいております。また、みどりアップ計画の概要や取組内容についても補足してご説明させていただきます。</p> <p>それでは、次第の1番にうつります。部会長の選任についてです。「横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱」第6条第3項の規定により、「部会に部会長を置き、部会長は、当該部会の委員及び専門委員の互選によって定める」とあります。どなたかご提案はございますか。</p> <p>（池田委員） 経験豊富な池邊先生にまたお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>（事務局） 今、池田委員のほうからご提案がありまして、池邊先生ということですが、皆さま、いかがでしょうか。 皆さん、うなずいていらっしゃいますが、よろしいですか。</p>

(国吉委員) はい。

(高田委員) お願いいたします。

(事務局) それでは、部会長を池邊委員にお願いしたいと思います。一言、ご挨拶をいただけますでしょうか。

(池邊部会長) 今、互選していただきました千葉大学の池邊と申します。3月は中止ということで、今回からよろしくお願いいたします。ランドスケープのデザインの方の専門をしております、この横浜みどりアップ計画につきましては、市民税創設のときから、進士先生と一緒に関わらせていただいております。また、この「緑をつくる」という部会でございますけれど、当初は農地や林地の保全というのが市民税の主目的にされていまして、そういった中で都市部のファミリー層ですとか、あるいは、マンションにお住まいの方ですとか、そういう方々が緑をつくるということが重要なんですね。やはり市民税を納付している市民の方々がそれを納付している成果、そういうのを実感していただくということで、当初は街路樹の剪定というようなところから始まりましたが、最近は本当に街並みの緑、それがコミュニティにも寄与するというので、非常に皆さんに喜ばれているのではないかと考えております。  
「緑をつくる」という部会について今後ともよろしくお願いいたします。

(事務局) 池邊先生、ありがとうございます。事務局からは以上となります。  
それでは、今後の議事進行につきましては池邊部会長にお願い申し上げます。池邊部会長、よろしくお願いいたします。

(池邊部会長) 議事の次第のほうに入らせていただきます。次第の2番ということで、「緑をつくる」施策の評価・提案についてということでございます。それでは、事務局のほうから資料の説明をお願いいたします。

#### (事務局説明)

(池邊部会長) 今日は道路局施設課さんにも来ていただいている、街路樹は空き桝の補植をやっている所は多分、日本全国の中でもほとんどないという、部分的にやっている所はあると思いますけれども、これほどやっている所はないのではないかなと思いますし、各種の成果が非常によく分かったのではないかなと思います。  
本日は最初に、報告書の36ページ、施策1についての評価・提案というところ、事務局のほうで案を作っていたので、それを見ながら、ここは違うんじゃないかとか、ここはこういう表現にしたほうがいいんじゃないかとか、そういうことも含めてご議論をいただければと思います。  
最初に、施策1、施策2ということで、施策ごとにご意見を賜りまして、その後、13ページ、柱3、全体についてのご意見ということで進めさせていただきたいと思います。  
それでは、34ページの実績を踏まえた36ページの評価の文案、あるいは、事務局からの説明についてのご意見・ご質問でも結構でございますので、お願いいたします。いかがでしょうか。

(池田委員) これは前回もちょっとお話ししたと思いますが、この中の言

葉で「緑花」ということで、緑の花という言葉を使っていますよね、横浜市さんが。私は個人的には賛成です。最初に出てきたときに、どこかに説明文でも補足で入れといていただいたほうがより分かりやすくなると思います。普通、「リョッカ」って言うと、「緑化」ですよね。その中には花も含まれていますが、一般の方に対して、あえて、「花」と言ったというところで、この文章のどこかに説明を入れといてほしいなと思います。

(池邊部会長) とても大事なところでございまして、一昨日まで里山ガーデンのほうもやられていたとお伺いしています。このところ、横浜市というのは本当に緑というだけではなく、花も非常に市の顔として目立つものになっているのかなと思います。その辺り、「緑と花」ということで、最初に説明を加えてはどうかというご意見でございます。いかがでしょうか。

(事務局) まず、今、池田委員から応援のお話をいただきまして、花を含めて緑花活動をしているというところでは、だいぶ馴染んできた言葉かなと思う一方、やはり分かりにくい部分もあるかと思しますので、最初の言葉が出るところで少し補足するように工夫していきたいと考えております。

(池邊部会長) 池田委員、それでよろしいですか。

(池田委員) 結構でございます。よろしく願いいたします。

それから、これは事務局の方々にお伺いしたいことです。例えば、街路樹は、目標2路線に対して実績8路線で、4倍もやりましたよと、書かれています。字面では相当良いですが、これ、現実的に予算を2路線分、例えば、3000万円もっていた、そのうちの8路線で、細切れで3000万円を使いましたよということなのか、それとも、2路線で3000万円持っていたけれども、実はその4倍の1億2000万円使ったとか、その辺りはいかがですか。

それから、実績ということで、低木で889本しか、もうほんの少し、何平米分しか植えていないようですけども。高木の補植ということになると、サクラだとかケヤキだとかプラタナスだとか、植え替えられていると思うのですが、その高木に関して何の記載もないですが、一切植えなかったということですか。どうでしょう、この辺りの説明をお願いしたいんですが。

(池邊部会長) ありがとうございます。私も空き桝の説明資料で、高木の写真が載っていたところ、それが実績では低木の記載となっているというところで、後でお伺いしようかなと思っていました。

それから、路線が多いけれども、それは予算が増えているのかどうなのかというのは大事な点だと思いますので、事務局のほう、お答えをお願いします。

(事務局) 今のご質問のうち、まず、予算についてご説明します。予算については毎年度決められた予算がございますので、計画は計画で2路線という形でやっているのですが、地域の方とお話進める中で、ご要望がかないような所については、少しずつ、その予算の中でやった結果を8路線ということで、実績といたしました。

もう一点、高木の記載の件ですが、空き桝の補植は、実際、サクラなどは腐朽菌で腐敗して、伐採するところまでは割とできますが、そのまま根の撤去というのが結構大変なものでござ

います。植え替えまでできるような場合にはやっている所もありますが、みどりアップ計画のほうでやるときには、並木の再生とか、もう少し大きな視野でやっています。

空き木の補植ということで、カウントできるものが今回は低木しかなかったということです。高木につきましては、各区で空いている木の把握を進めているところです。今年度、高木の植栽予定もありますので、令和2年度については高木の実績もあがってくると思われます。

(池田委員) 元年度に高木も植栽しているけど、みどりアップ計画の実績ではないということですか。

(事務局) そうですね。元年度はこのみどりアップのお金ではない、道路局が持っているお金で植栽をした所もありましたので、今回、みどり税を使って植えたという、本実績にはカウントされていないという部分がございます。

高木の植え替えをするときには、伐採と植え替えを同時期にやれる場合を想定して、こちらのほうの記載を考えていましたので、撤去は以前にしている、補植だけの場合、元年度は実績に入れていません。

空き木等のチェック、実際、台帳の整理を今年から始めることにしてしまして、その整理も踏まえて、今後、こういうところで記載できるようにはしていきたいと考えております。

(池田委員) そうすると、予算の範囲内ということだと、例えば、1億円持っていたら、1億円を使い切ったということですか。1億2000万円もやったという形ではないですね。

(事務局) 並木の再生ですけれども、実際、2路線全て終わりましたという話ではなくて、全ての路線について、路線距離がかなりありますので、部分、部分で計画的に進めているという形になります。8路線のうち完全に終わったものも3路線ございますけれども、他の5路線につきましては、今年度以降も整備を順次進めているところでございます。

(池田委員) でも、この書き方だと、令和1年度に2路線のところを8路線の実績があるということでしょうか？

(事務局) そうですね。やっていますというか、整備していますということですね。

(池田委員) 実績の金額的はどういうことだったのですかという単純な話をお聞きしているんですけども。

(事務局) もともと予定していた路線でやっていますので、予算が大きく膨れ上がるということはありません。

(池田委員) では、予算の分のお金をこの8路線で使い切ったということですかいいですね。

(事務局) はい。

(池田委員) 空き木の補植ということ言えば、私が住んでいる所で、ちょうど昨年度、低木のツツジを植え替えていただきました。かなり枯れて斑点になったり、枯れていたりとか、そういう所を

やってもらったのですが、それはもう完全に889本以上やっていたのでね。だから、実際、この実績というのはいどこをカウントしたのかというのを明示しておいたほうがいいんじゃないですか。

(事務局) 今、お話にありました、道路局のほうでは、街路樹についての局の予算もございまして、実際にその現場を見ていただいている市民の皆さんのほうでは、みどりアップ計画の実績と実態とが違うかなと、そういうところがちょっとあるかと思えます。ですので、今後はもうちょっと分かりやすいような表示ができるような工夫を考えてみたいと思います。

(池田委員) せっかくみどり税を使ってやっていただいているのだから、みどり税を使ってやったのはここですよというような、この写真には大岡川プロムナードがありますけど、これは並木の再生のほうの写真ですよ。

(事務局) 大岡川プロムナードは並木の再生の写真です。

(池田委員) そうですよ。そしたら、空き木の補植というのをもう一つ、実績の資料に追加するとか、書いていただくと分かりやすいと思います。

(事務局) 空き木の補植の写真を追加するようにします。

(池邊部会長) 目標に「5か年10路線」と書いてあって、年度の目標は2路線だったけれど、実際に8路線。先ほどのお話ですと、あくまで着手であって、施工がすべて終わったわけではないというようなことだと思います。これだと、ちょっと誤解を生んでしまって、5か年でやるはずのところをもう8路線終わってしまったのかと。

あと、予算の話も今、ご意見のあったような誤解といいますか、そういう認識のご意見というか、質問も出てしまうかと思えますので、そこはちょっと修正が必要だと思います。

補植のほうも低木だけが植えられていて、この実績説明資料が報告書に出ているわけではないですけども、こちらは高木の写真ですので、その辺りも少し補足が必要なのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

(高田委員) 「路線」という決め方がどういう意味合いなのかなということで、「路線」だと、長さとか、高さとか、その辺りがどのぐらいできたのかというイメージが少し湧きにくいと思います。表現というか、実際はどういうところを目標にしていたのか、また、実績もどうだったのかというのがちょっと分かりにくいと思います。その辺りは少し工夫していただけるといいかなと。この報告書を市民の方が見られたときに、そのまま評価ができるのか、できないのかというところがありましたので、ご検討をお願いしたいと思います。

(池邊部会長) 総延長で示せるのか、「着手」というふうにだけしか書けないのか、実際に完了している所もあると思いますので、その辺りはいかがでしょうか、事務局。細かい数字が記載できますでしょうか。

(事務局) 今、実績と目標の書き方、おっしゃるとおり、2路線が着手

なのか、完成なのかというのがちょっと分かりづらいようなところもございます。実際は実績に着手している8路線という書き方をしています、2019年度目標も一応、着手ということで控えめな形で書かせていただいています。

ただ、今後はそれがちょっと分かりやすくなるような表現で記載させていただきたいと思っております。実際、2019年度はこの8路線の中でも3路線ほどは完成してございますので、その辺りの表現を加えさせていただければ、もうちょっと分かりやすくできると思いますので、よろしくお願いいたします。

(高田委員) この場合だけではなくて、全体に評価のところの目標と実績というところで、全部は書ききれない面もあると思いますけれども。これは、例えば、どこの路線でどうだったかというのをどこか別で実績が見られる場所があるんでしょうか。記載されている場所とか、ホームページとか、そのようなものがあれば、またそこを参照という書き方もいいのかなと思います。実際、私たちはどこができたのかなというのは知りたいところで、すし、また、できていけば、ちょっと訪ねたいなということにもつながって、皆さんの認識も広がると思うんですね。その辺りもう一步、詳細な表現ができる場所をまた別に設けるのも一つかなと思いました。

(事務局) 事務局から補足させていただきます。  
みどりアップ計画につきましては、市の事業として報告書をまとめているものがあります。この評価・提案の資料ではなくて、市の報告書のほうには、細かく数字が載っています。先ほどの街路樹につきましても、取り組んでいる路線名、それから、今、整備中の所につきまして表現されておりまして、これはホームページに見られるような形でアップされておりまして、これはまだ先週、アップされたばかりで報告が遅れていましたが、もう市民の皆さまも見られる状況にはなっております。

(池邊部会長) 詳細な報告書をきょう、皆さんのお手元にはないですけども、ホームページのほうにはアップされているということで、それには場所数ですとか、面積あるいは延長、場所名ですとか、そういうものが詳細に記載されているというふうに、例年のものですけども、私も認識しております。  
高田委員、いかがでしょうか。

(高田委員) そういうものがあれば、この評価・提案の報告書にも、そのリンク先が記載されたらよいのかなとは思いますが、それが一時的になってしまうこともあるのかもしれないですけども、見たときにそこを見ればいいというのがあるといいと思いました。

(池邊部会長) 事務局、いかがでしょうか、そういうものを追加することができるのかどうか。例えば、この表の下のところは報告書のリンク先を入れていただくという。既にアップされているということでございますので、この下のところはホームページのアドレスが出ていけばいいかと思うんですけども、いかがでしょうか。

(事務局) ご提案ありがとうございます。  
市のまとめている報告書、それから、今の市民推進会議でまとめているもののリンクが分かりにくいということでした。基

本的には市民推進会議でいただく評価・提案という部分は、市民目線で意見をいただく部分で、市がまとめている事業報告は、事業に対しての、とりまとめということになります。

あまり近い形で表現してしまうと、評価・提案なのか、事業報告なのか、ちょっと分かりにくい部分も出てくる可能性もありますので、事務局のほうでその辺り工夫をさせていただくということによろしいでしょうか。

(高田委員) はい。ぜひご検討願えればと思います。

(池邊部会長) せっかくやっているのであれば、それが分かるように、一般の市民の方もどこがどんなふうに変ったのかとか、あるいは、先ほど、高田委員がおっしゃったように、きれいになったんだったら、ここの大岡川プロムナードのように、見に行ってみたいとか、そういうふうにつながったほうがいいのではないかという、非常に前向きなご意見でございますので、ちょっと事務局のほうでもご検討いただければと思います。

(国吉委員) 今、お話を伺った中で少しずつ消化してきています。36ページの評価・提案ということで、言葉的にやはり分かりにくい部分が多くて、例えば、最初のほうで、「緑の創出・育成については目標を下回る件数となっている」というのが、さっとこれだけ見ると、どうして下回ったのかなというような疑問が少し残るかなという点。

一番下のところで病院のところでしょうか。「身近な病院での良好な緑化整備支援が行われおり」というようなこともあります。これに関しては35ページの「担当者コメント」というところを読むと、何となく理解ができるようになっていきます。何かもうちょっと具体的なところを入れるのか、言葉の表現を変えるかなどをしたほうが分かりやすいのかなというような印象がありました。

(池邊部会長) 非常に大事な視点で、特に今、おっしゃった、一つは「目標を下回る件数」というネガティブな表現のところなぜなのかというのと、あと、「PRが必要です」という病院の緑化支援のところですけども。ここは35ページを読んで初めて、こういう医療施設にもやっているということが分かります。

例えば、34ページだけを見ていると、それがどこのものなのか、「公開性のある緑空間の創出支援」のところに含まれるのかなという感じではありますが、「緑化保全契約」のところかもしれないというふうに思ってしまうかもしれませんし、具体的なところが分かりやすいほうがいいのかというご意見かと思いますが、いかがでしょうか、事務局。

(事務局) ご意見ありがとうございます。

この評価・提案の報告書が先ほどもお話ししました、市が事業報告をまとめた上で、それについて実績がどうなっているところが、今の報告書には34ページに数字があって、35ページには市担当者のコメントがあってという流れの中で36ページの評価・提案、あくまでも案として作らせていただいております。

その流れを理解していれば分かるんですが、ここの36ページだけを見ると、何だろうなというところは確かにあると思います。ですから、ちょっと重複する部分をどうするかというところはありますけれども、これはこれで文章が成り立って見やす

いほうが、当然、市民の皆さんも読みやすいと思いますので、この辺りも工夫させていただきたいと考えております。

(池邊部会長) 多分、この35ページのところが、例えば、「実績としては1件でしたが、実際にやられた整備が医療施設であり」とか、これは実際にそうですか、今年支援を行った事例は医療施設の事例ということでしょうか。事務局、お願いします。

(事務局) 民間施設での緑化に助成をして、緑を増やしていただくという取組になっておまして、こちらで書かれているように、一般の病院の屋上でその助成を活用していただいて、緑化が進んでおります。

こちらは病院にいらっしゃった方であればどなたでも、屋上に入って緑に触れることができるというような助成になっております。

(池邊部会長) こういった事例は従来からもありますが、それに支援を行っているという事例はあまり多くはないと思いますので、ぜひアピールの意味でもきちっと記述されたほうがいいのかと思います。

(国吉委員) そうですね。この35ページの「助成された屋上緑化(鶴見区)」という、ここがその病院だと思いますが、写真を見て病院かどうかというのがちょっと分かりづらかったりするので、ここが病院でリンクしているというのが分かったほうがより、皆さんがパッと見た感じで理解できる気がするんですね。

(池邊部会長) 写真だけ見ていると、どこなのかがちょっと分かりにくい写真に見えます。病院に入院している方とかが散歩できるような空間なのでしょうか。

(事務局) こちらは病院の屋上緑化の助成ということになりまして、写真のキャプション、名前の付け方がちょっと分かりにくいところはご指摘のとおりですので、この辺りは修正させていただきます。

(池田委員) 36ページですけども、一番の上のところに、「積極的に緑化を働きかけてください」と書いています。この緑化は、例の花の緑花でも大丈夫ですか。変えたほうがよろしいんじゃないですか、せっかくそういう緑花という言葉をつくったのなら。

(事務局) 「緑花」という字を使うところは、本当に目立つ、市民が集まるような場所で花を楽しめるようなところがメインになった緑と花、を指しておまして、一応、我々としては使い分けをして、こちらの「緑化」のほうはより幅広に緑が増えてくれればいいなというふうに思っています。

(池田委員) 基本的に「緑化」という言葉を使えば、世間一般的には緑も花も含まれているから、これ一つならいいんだけど。あえて「緑花」という言葉を使ったのならば、今後、「緑花」を使ったほうが、私はいいかと思いますので検討してください。

それから、この文章なんですけども、「積極的に緑化を働きかけてください」というのは、誰から誰に向かっての言葉ですか。

(事務局) こちらは、公共施設緑化、公共施設・公有地での緑の創出に



関して積極的に緑化を働きかけてくださいという表現で、公共施設の管理者がそれぞれおりますので、その公共施設の管理者に対して、みどりアップを推進している事業の所管課である我々が働きかけるということになります。

(池田委員) でも、市民から見ると、このみどりアップも横浜市の組織の中でやっていて、また、施設管理部署も横浜市。なんかちょっと変じゃないですか、これ。

(池邊部会長) 公共施設、公用地って言ったときに、これは市以外の県とか、他の公の施設というものも含まれているというふうに考えていいでしょうか。

市のものだけだとすると、今、池田委員がおっしゃったような、ちょっと変な感じになりますし、市が掲げた目標に対して、実際に市のほうとして下回っているということだと、「働きかけてください」という言葉で出しているのかというところは問題になるかと思えます。

(事務局) こちらの対象としている公共施設は横浜市の施設で、市民に公開しているものというのが基本になっておりますので、そういう意味ではこちらの文章の表現が、委員の皆さまがちょっと分かりにくいというご意見がありましたので、修正する方向で考えたいと思います。

(池邊部会長) 冒頭に国吉委員からも、なぜ下回ったのかというようなところもご指摘があったかと思えます。7か所が4か所ということで、5割ちょっとというような形でかなり下回っているというような印象ですが、この辺りの理由とか、そういうものはどうでしょうか。

(事務局) こちらは5年間で36か所の目標で、2019年度は7か所の目標ということやっておりますけれども、施設管理者との調整の結果、多少むらがあって、少ない年と多い年が出るということは、我々、事業を進めている部署としてはしょうがない部分もあるというふうには思っています。

昨年度は、4か所の実績ではございましたけれども、今年度、鋭意、昨年度の分も含めて緑化の箇所については増やすような調整を今、進めているというところでございます。

(池邊部会長) ここは大事なところかなと思うのと、あと、今年度、コロナということで、先ほどのお話ですと、今年度頑張りたいというお話でした。けれども施策によってはコロナ禍で進まなかったというものも出てくるのかなと思います。ある意味、コロナ禍でこういう公有地の緑化スペースというのは非常に大事な空間になっているというのが市民の実感だと思いますので、ここにどう記述するかというのは、私たちの課題です。

(池田委員) 「街路樹による良好な景観の創出・育成」というところで、「街路樹剪定士」というのは実際にやる市の職員が街路樹剪定士なのですか。それとも、街路樹剪定士がいる業者を選択することですか。

(事務局) 街路樹剪定士は業者と委託契約を結びまして、そちらでやらせていただいております。

(池田委員) 委託を受けた街路樹剪定士が各街路樹の剪定の指導に当たっているということですか。

(事務局) そのとおりでございます。

(池田委員) 街路樹の剪定については、市が業者の言いなりになるのではなく、市の方でもきちんとチェックできる人間がチェックしたほうが、より良い、良好な景観になるんじゃないでしょうか。

(事務局) 道路局として、現場の土木事務所からの剪定に関する問い合わせとか、アドバイスなどは承っております。年一回、街路樹剪定士を招いた研修を行っております。土木事務所の監督職員と委託業者も責任者を含めて参加していただいて、樹木の剪定のやり方とか、その辺りは毎年必ずやらせていただいております。

それから、土木事務所の街路樹担当とは、グループで共有できる情報のやりとりもしておりますので、また、お気付きの点があればおっしゃっていただければと思います。

(池田委員) もうちょっと各土木事務所の現状をみて、それから、講習会をやっているからという形だけど、講習会をただやっているだけで、皆さんにその技術が身に付いたのか、その辺りも実証してほしいんですね。

(池邊部会長) 街路樹の維持管理の一番大事なところではございますし、事務局のほうで反映していただくということで、そろそろ時間的に押してきましたので、施策2のほうに移らせていただいてもよろしいでしょうか。

(国吉委員) 一つだけよろしいでしょうか。

施策1の評価の3番目のところに、「緑の少ない神奈川区」という表現がありますが、この例として、六角橋の所であるので、逆に、「神奈川区」という言葉は要らないのかなという気がしました。あることで、神奈川区の方は緑が少ないという印象を、逆に持ってしまわれるので、ここはなしでもいいのかなという気がいたしました。

(池邊部会長) 「緑が少ない神奈川区」というので、本当に神奈川区の方からすると、ちょっと良くない表現かと思うので、ここは修正したいと思います。

先ほどの1のほうの「目標を下回る件数」という辺りも少し修正をさせていただきたいと思いますので、もしよろしければ、私のほうへ一任していただいて、事務局とやりとりの結果を皆さんに見ていただいてということでもよろしいでしょうか。

(一同) はい。

(池邊部会長) それでは、施策2のほうに移りたいと思います。施策2は37ページに取組実績が三つですね。それと、40ページに評価・提案があります。この部分は本当に地域緑のまちづくり、こんなに多い予算で3年間できるというのは、本当に横浜しかないですし、この計画でできたものですので、この成果は素晴らしいと思います。他のところも含めていかがでしょうか。ご質問、ご意見を賜りたいと思います。

(池田委員) 地域緑のまちづくりですけれども、昨年、私の知っている緑の推進団体に、どんな状況かというのを聞きましたら、今年は例のコロナの関係で4月のミーティングすらできなかったと。やっと7月になって始動したということで。それで、活動していく中で、3年間で1500万円、1年間500万円だけれども、その補助金を活用するのにいろいろ、市のほうに書類を出さなきゃならないなかで、細かいことを言われて、なかなか前へ進まないという、実際にやっている方々からの声が届いていますが、この辺りいかがですか。

(事務局) 補助金につきましては、横浜市全体の補助金のルールもごさいます。大変申し訳ないですけれども、市役所としては書類の削減等がなかなか進まないというのは確かにごさいます。できるだけ、我々も作成にあたってフォローアップさせていただきたいと思っておりますので、ご理解いただければと思っております。何でも聞いていただいて結構ですので、もし、また地域の団体にお話しすることがあれば、遠慮なくご相談をいただければと思います。

(池田委員) そうですね。せっかく地域で盛り上がっているなか、手続きで市の方に門前払いされてしまうというか、ストップをかけられてしまっている。そうすると、やる気がなくなってしまうというのが現状ですよ。

だから、その辺りは市でもよく理解していただかないと、ルールはルールで。何でもかんでもオールフリーでというのは絶対いけないことだけれども、そこはフォローアップをちゃんとしっかりやっていただかないとね。

そここのところはよく市民の側に立って、こういうふうにしてください、というアドバイスをしていただいて。市民は一緒になってやりたいということで手を挙げたんだから、そここのところはもっと、せっかく花と緑で横浜市のガーデンシティを一緒になってつくろうという志があるんですから、その芽を摘まないでほしいですよ。

(池邊部会長) 貴重なご意見ありがとうございます。

ただ、多分、先ほど、私が申し上げたとおり、500万円で3か年、1500万円というお金はやはり大きなお金で、その部分がある意味預かっている。今までの地域の方には同じような書類を出していただいていると思うので、今の政府をはじめとして、そういう書類だとか慣行だとかの軽微化みたいなのが進んでいますけれども。なるべく今後、特にコロナ禍においては少し前向きにやっていただきたいということで、ある程度の書類はやむなしというふうに、やっぱり税金の中の一部から拠出しているお話ですので、ご理解賜りたいというふうに思いますけれども。

(事務局) 今の件でよろしいですか。このコロナの状況によって、なかなか書類の作成を簡略化するというのは難しい面もごさいますけれども、具体的なお話をいただければ、しっかりアドバイスをして、できるだけ、皆さんが考えた地域の緑化計画が実現に向けて動いていくという点は、我々はぶれておりませんので、しっかりとやっていきたいと思っております。ありがとうございます。

(池田委員) よろしくお願ひしますね。

(高田委員) 緑被率は、年度ごとの実績も出ていますけれど、やはり減少傾向にはあって、その中で地域緑のまちづくりがどのぐらい貢献しているかを知りたいと思っています。

今後に向けてのところで、この「増やす」ということについて、私も、区民としても、区役所での情報交換とかをしていきたいと思っております。区との連携がどうなっているのかなという点でお聞きしますと、やはり情報など市との連携がまだ取りきれていないのではないかと考えています。この辺りは提言のほうになるとと思いますが、今後はもう少し、やはり地元の区との連携を取っていただけると、今までなかなか推進できなかった市民との交流もできて、ここの推進が進むのではないかと考えております。その辺りもちょっと入れていただけたらと思っています。

(池邊部会長) 今のご意見は、地域緑のまちづくりの取組の中でということでしょうか、もっと全体の話でしょうか。

(高田委員) 全体的にもそうですが、特に地域緑のまちづくりは、地域に根差しているところで、やはり市民の活動をサポートしている部署が区にもありますが、そこのつながりがなかなかうまくできていないと思っています。

(事務局) 地域緑のまちづくり事業の取組中でありまして、3年間の助成の期間が終わった後なども地域の緑化推進の団体の皆さんから、その後も支援が続けられないかといったような話もありまして、そういうところで区の独自の取組も使って、一部支援するというのも、現在できている所もありますので、この区との連携、どのような形でやっていくのがいいのかを考えていきたいと思っております。

特に我々も18区全てくまなく、地域の事情がわかっているわけではございませんので、特に区のほうから緑のことに関心の高い町内会などの団体があって、ぜひ支援をもらえないだろうかというような相談があれば、もちろん、それは大歓迎でございますので、そういったところは念頭に置いて考えたいなと思っております。

(高田委員) その継続のことよりは、どちらかという、まずは掘り起こしのほうを思っています。私たちは地域緑のまちづくり事業で活動をさせていただきましたけれども、皆さん、どうやって取り組んだらいいとか、私たちの所に見学に来てくださる方もいらっしゃるんですけど、そういうことをやっていること自体も知らない方も多いです。たまたま区での交流会のようなどきにお話ししたところ、そんなことがあるならやってみたいけれど、ちょっと無理だと思うとか、そういうお話になってしまっています。その時点でもう少し、掘り起こしのところで区が広報したり、そういう会を開いたりということで、横浜市のほうからの情報が入っていれば、いい形でできるのではないかとこのことを実感したところです。

(池邊部会長) そうしますと、「さらに団体が増えていくために区と連携を深め」というような一文を入れるというような形でよろしいですか。

(高田委員) そうですね、ぜひ。ありがとうございます。

(池田委員) 38ページに、「子どもを育む空間での緑の創出」ということで、小学校とか幼稚園・保育園にいろいろ補助をしていますよと、こういう形で例が挙がっています。作るときには、すごく熱心な先生がいて、それで作られたけれど、その先生が異動しちゃうと、もうあとは宝の持ち腐れで、そのまま放置されて、また雑草だらけになるという現状が多々あるみたいです。

ですから、作るときには助成をしますよじゃなしに、持続していくためには、維持管理のほうのフォローアップもしていかないとまずいのかなと。

だから、例えば、芝生化なんていうのも、確かに芝生は植えたときにはきれいですけども、それが持続的に緑になっていくのかどうか、その辺りの検証をするだとか、ちょっと駄目になったら、こういうふうにすると直りますよとか、そういったことをしとかなないと、最初の整備だけで満足していたら何にもならないんじゃないでしょうか。

ただ、数字だけ、何か所緑化しましたよという形じゃなくて、やっぱり「持続可能な」というのが今の世の中、枕詞になっていますけれども、維持管理についても、「園庭芝の育て方講座」ということで、最初のときはこういうふうにやったというだけでなく、コロナ禍で動きたくても動けない、学校の先生だけをお願いするだけでなくPTAを巻き込んだ仕組みづくりだとか、そういうのもあればよろしいのかなと、ちょっと思いました。

(池邊部会長) 維持管理のほうの助言だとか、そういうものは従来から、ここにも「育て方講座」とかというのがあるとは思いますがけれども。実際に、この「維持管理」と書かれている中ではそういうものがされているという理解でよろしいでしょうか。事務局、今の池田委員のご指摘に対してはどうでしょうか。

(事務局) 学校や保育園などで、子どもが幼少期の頃に緑に親しんだという記憶を持って大人になってもらいたいと思っておりますので、我々もしっかりと取り組んでいるところです。

先生の異動ばかりは、ちょっと我々のほうではいかんともしがたいところがございます、確かに、池田委員のおっしゃるようなジレンマはあるだろうとは思っています。

芝生も、ビオトープも当然、生き物ですので、そのまま、先生の、大人の都合で枯らしてしまっただけではいけませんので、我々としては、その維持管理の予算の手当てでありますとか、あと、完成した後も専門家を定期的に派遣して、これは我々のほうから見に行く、あるいは、その施設管理者のほうから、「ちょっと見てくれないか」と言われるときにはすぐ行くとか、そういうことを継続的にやっていくことで、少し手助けになればなと思っています。

あとは、ビオトープとか芝生化も、きちんと維持管理がされている良い事例というのは幾つかございますので、そういう事例を、管理者に集まってもらうようなタイミングで少しお話をさせていただくということで、少しでもそういったノウハウを提供できないかなと考えております。

(池邊部会長) 40ページの上のほうの「市担当者のコメント」のところでは、「適切に管理ができるように支援を実施しています」という文言が書いてありますので、2ポツの私どものところでは、「長期的に健全な育成とか管理ができるように図っていただきたい」というような一文を入れるというようなことでよろし

いでしょうか、池田委員。

(池田委員) そうですね。

それと、せっかく芝生化した小学校だとか幼稚園だとか、それから、ビオトープを作ったら、それも今、どうなっているのかというのを検証したほうがいいじゃないですかね。良い事例がいっぱいありますって言うけど、悪い事例のほうはどのくらいあるの、そのうちのというのを。その悪い事例が多かったときに、良い事例が、こういうふうにやるとできますよというアドバイスというか、フォローになるので。悪い事例はどのくらいあるのと言ったときに、それは分かりませんじゃ、ちょっとおかしいんじゃないですかね。

せっかく事業をやってお金をかけているんだから、それがそのときだけじゃなしに、維持管理だとか、それぞれずっと続けているかどうかという検証をしていかなったら、ただ、100か所やりました、いや、100か所目標で150か所できましたと。でも、実際には良くなっていない、20か所だけ増えたでは、何にもならないと思うんですよね。お願いいたします。

(池邊部会長) それについても、「その後の維持管理等に関する検証等も入れていっていただきたい」というような一文を追加するということでよろしいでしょうか。

(池田委員) はい。よろしく申し上げます。

(池邊部会長) 施策2について、地域緑のまちづくりと保育園などでの緑の創出・育成についてはご指摘がありました。都心部の緑化のところはいかがでしょうか。非常にこのところは良い評価が出ていると思うんですけれども。この表現でよろしいでしょうか。

ここはちょうど、「コロナウイルスの影響により」とかというものをに入れていただいている、「ますます市民の期待が高まっており、今後もこの事業にしっかり取り組むことが必要です」というふうに結んでいただいているんですが、何か追加があれば、お願いいたします。よろしいでしょうか。

では、最後の総合評価のところに行きたいと思えます。13ページのところです。計画の柱3、「市民が実感できる緑や花をつくるについて」ということで、上のほうの段落では、「一層図られていくことを期待しています」ということ、それから、下のほうでは、「市民の緑や花への関心が高まっていくことを期待します」というような文末になっています。この辺りの表現についての追加修正のご意見はいかがでしょうか。

すみません、私のほうからであれですけど。「公共施設、公有地においても一層図られていくことを期待します」というのは、ここは先ほどの池田委員もおっしゃっていたところなので、何となくちょっと、これは「期待します」というよりは、もう「図るべきです」ぐらいになってしまうような感じなので、ここについては、もし皆様のご同意を得られれば、もうちょっと強い言葉で結びたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

(一同) はい。

(池邊部会長) その下のほうはどうでしょうか。「市民の緑や花への関心が高まっていくことを期待します」ということです。上のほうで、「上回る実績であり、評価します」と言った上で、「関心が高ま

	<p>っていくことを期待します」という感じですが、これは、市民の方々に対しての言葉になっているような感じがしますが。</p> <p>(高田委員) 関心が高まるだけではなくて、実感も持てるのか、利用できるのか、楽しめるのか、そういうことまでができることを期待したいですね、気持ちだけではなくて。</p> <p>(池邊部会長) そうですね。関心だけではなくて、実現できるような働きかけとか、そういうところの行動に移していくという部分をちょっと入れるというご意見ということでしょうか。</p> <p>(高田委員) はい。</p> <p>(国吉委員) 「推進する」という言葉だとかを入れたほうがいいのかという感じがします。</p> <p>(池邊部会長) そうですね。分かりました。  何となく、これだと、「高まっていく」というのはすごく啓発にとどまっているというような感じなので。まさに横浜市の市民の方々はまだかなり動的な部分、実現の部分に、一部かもしれませんが、それが全体に広がっていくというような動きが必要なのかなというふうに思っておりますので、「推進」とか、もう一段強い言葉で、「実現につながっていく」というようなことを期待します」という言葉にしたいと思います。  他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。  何かあれば、追って事務局のほうにご意見をいただくということで締めたいと思います。  総合評価についても、少し修文するというところで、皆さんからご同意いただけたということでしょうか。</p> <p>(一同) はい。</p> <p>(池邊部会長) ありがとうございます。  それでは、事務局のほうにお返しして、今後の取りまとめについてご説明のほどをお願いいたします。よろしく願いいたします。  皆さん、ご協力ありがとうございました。</p> <p>(事務局) 本日は貴重なご意見ありがとうございます。やっていることがしっかり伝わるようにということで、もう少し表現については池邊部会長と相談させていただくことになると思いますが、本日、いただいたご意見を、改善と、それから事業の推進という力に変えていって、みどりアップ計画をさらに推進していきたいと考えていますので、引き続き、よろしくお願いいたします。  本日の議事内容は終了いたしましたので、「横浜みどりアップ計画市民推進会議 第13回「緑をつくる」施策を検討する部会」を終了いたします。どうも本日はお忙しいところありがとうございました。</p>
資料 ・ 特記事項	資料1 横浜みどりアップ計画市民推進会議 2019年度報告書(案)【抜粋】

